

事務事業評価表 平成25年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
 基本事業 自主的市民文化 芸術活動の育成・支援

事業名 セラミックアートセンター管理経費

[0478]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>セラミックアートセンター</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>快適かつ安全に利用してもらう ・多くの市民に利用してもらうことで、れんがとやきもの まち「江別」のイメージの共有を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>・セラミックアートセンターの管理運営に要する経費。 ・小森忍および道内作家、れんが資料の収蔵、展示。 ・陶芸を中心とした企画展、各種陶芸教室、講座等の適正な 管理運営。工房、窯等の貸し出し。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標2						
活動指標1	開館日数	日	304	302	303	304
活動指標2	運営 維持管理経費	千円	40,228	40,648	38,613	39,600
成果指標1	利用者数	人	17,386	23,543	19,982	20,000
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	40,227	40,647	38,612	39,600
正職員人件費 (B)		千円	7,657	6,822	7,214	7,250
総事業費 (A) + (B)		千円	47,884	47,469	45,826	46,850

費用内訳	
24年度	報酬 3,492千円、賃金 1,438千円、需用費 11,364千円、役務費 205千円、委託料 21,926千円、使用料及び賃借料 17千円、負担金 補助及び交付金 10千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	セラミックアートセンターの管理運営	事業を取り巻く環境変化	陶芸の里計画の見直し 施設のあり方検討の中で、市民ギャラリーの機能を付加して利活用を図ることとなり平成23年度に企画展示室の改装を実施。幅広い芸術文化の展示発表が行える地域文化創造の新たな拠点とした。
--------	-------------------	-------------	---

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由・
根拠は？

陶芸の里条例および規則

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由・
根拠は？

芸術作品の収集と鑑賞機会や制作の場を提供するものであり芸術活動に対する支援と情報発信の基盤となる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由・
根拠は？

江別の顔づくりには一定程度役立っている。
入館者数は、国立美術館巡回展等があった23年度に比べて減少はしているが、全体的にはロビーイベント等の開催により微増傾向にある。
さらに市民利用を促すためには、施設の多目的利用など運営に工夫が必要である。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

施設の多目的利用など運営方法を工夫する。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある
ない

理由・
根拠は？

17年度に大幅な経費節減を図っておりこれ以上は軽微な削減しか見込めない。
かつ施設設備等の経年劣化により維持管理に係る経費の増が必要となってきた。